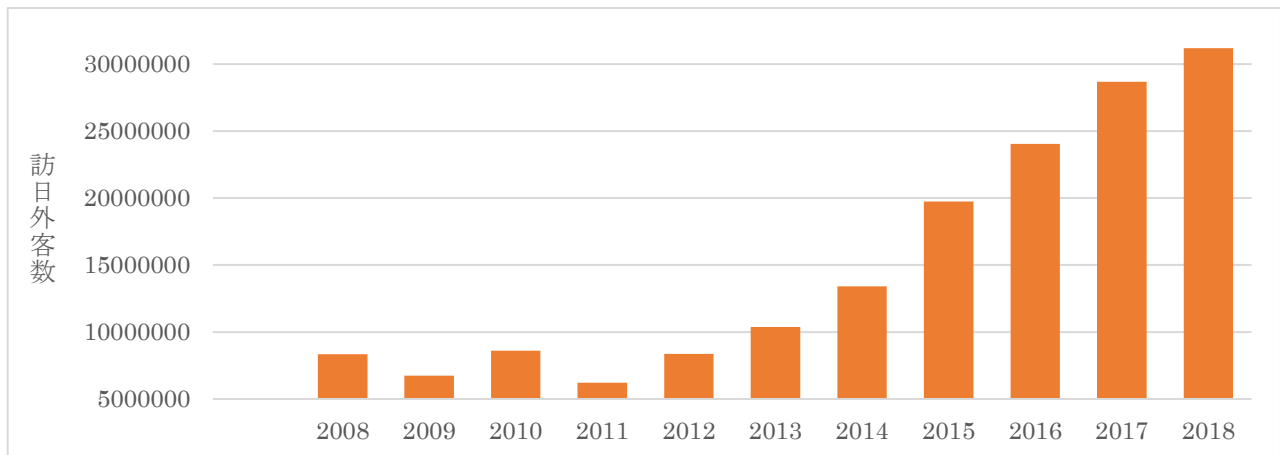


練習問題:どこがおかしいでしょうか?(7か所)

ピクトグラムを活用した災害時における外国人観光客の誘導について

近年、日本を訪れる外国人観光客の人数は増加し続けている。図1からわかるように、2008年には約830万人だった訪日外客数は、2018年には3倍以上の約三千百万人となっている。政府が策定した『明日の日本を支える観光ビジョン』(2016)によると、2020年には訪日外国人旅行者数の目標は4,000万人、2030年には6,000万人と掲げられている。日本はこれから「観光大国」となる道を進んでいるといっても間違いではないだろう。



一方、日本は外国と比べて、台風や地震といった自然災害が発生しやすい国土であると言われていいる。そのため、『防災白書』(2017)によれば、定期的な避難訓練の実施や、防災対策が数多く行われており、多くの公的機関ではハザードマップの公開等も行われ、広く国民に防災情報が伝えられている。

しかし、外国人観光客は、日本で災害が発生した際に何が起きたのかを理解できない可能性がある。特に日本語がわからない外国人の場合は、情報の入手が困難となり、適切な避難が行えない状況も発生することが予想される。

災害発生時に言語を問わないインフォメーションの手段として、永山ら(2014)は、記号や図を用いた誘導が想定されると述べている。本論文では、特にピクトグラムを活用した外国人観光客の誘導の可能性について、提案します。(以下略)

【参考文献】

明日の日本を支える観光ビジョン構想会議(2016)「明日の日本を支える観光ビジョン」(http://www.mlit.go.jp/kankocho/topics01_000205.html).

国土技術研究センター(JICE)「外国と比べて自然災害が多い日本」(<http://www.jice.or.jp/nowledge/japan/commentary09>, アクセス日:2019年12月1日).

国土交通省(2018)「災害時初動対応マニュアル」(<https://www.tb.mlit.go.jp/chugoku/content/00044149.pdf>, アクセス日:2019年12月1日).

日本政府観光局(JNTO)「日本の観光統計データ:年別 訪日外客数の推移」(<https://statistics.jnto.go.jp/>, アクセス日:2019年12月1日).

内閣府『防災白書 平成29年版』日経印刷.

永山雅大、原田一、永山広樹(2014)「広域災害における避難誘導のためのサインユニットについての研究」『日本デザイン学会研究発表大会概要集』61巻0号.